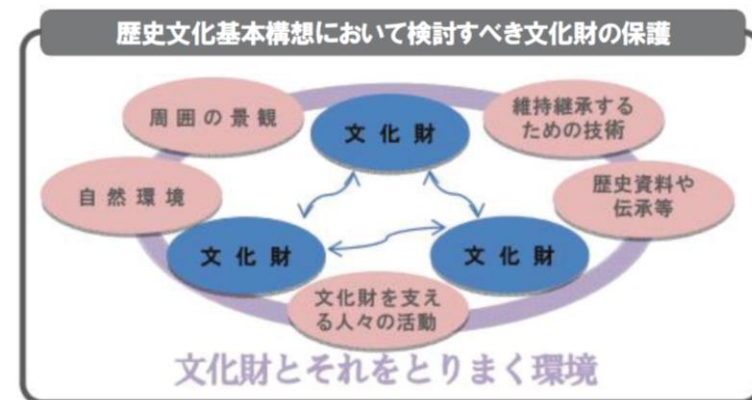
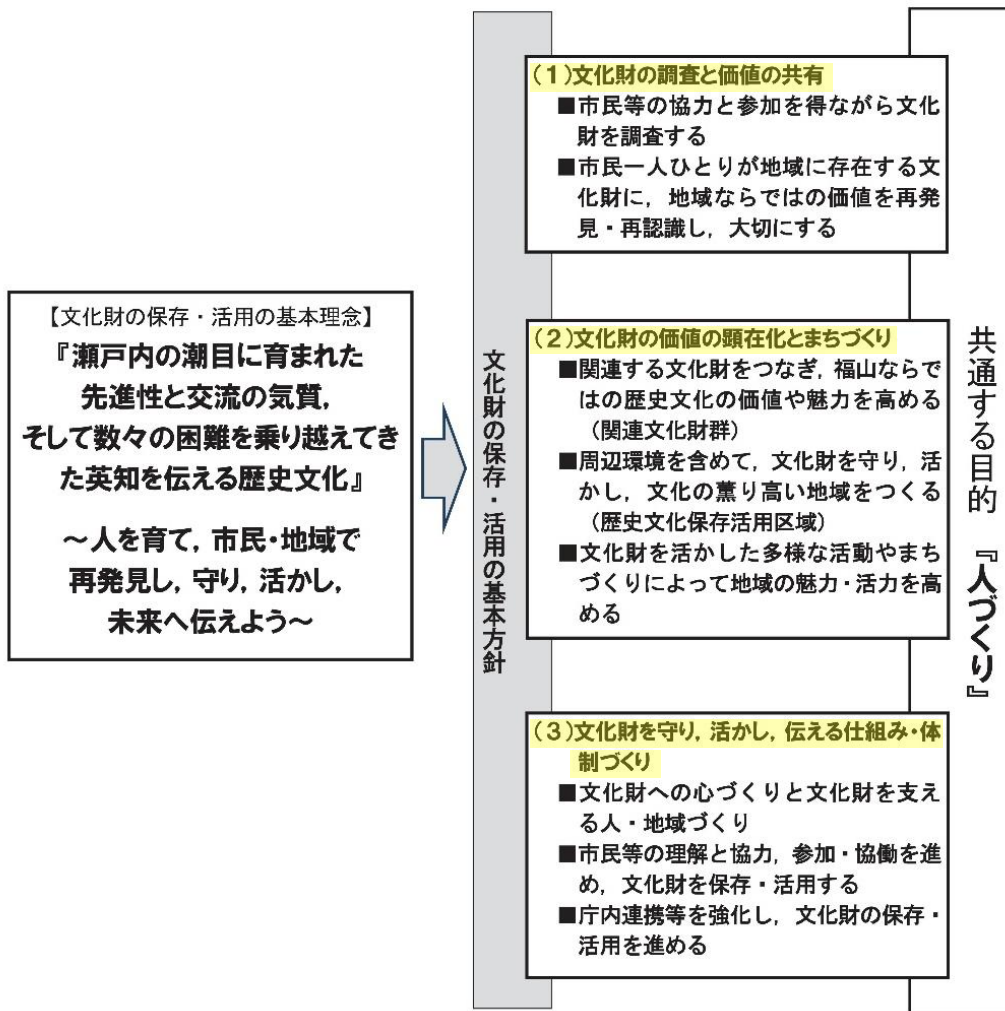


福山駅前広場における 遺構を生かした空間づくりについて

2023年（令和5年）9月25日

福山市 建設局 福山駅周辺再生推進部 福山駅周辺再生推進課

●福山市歴史文化基本構想



「歴史文化基本構想」策定ハンドブック（文化庁）より

「歴史文化」とは、文化財とそれに関わる様々な要素とが一体となったものを指す。文化財に関わる様々な要素とは、文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承などであり、文化財の周辺環境と言い換えることができる。

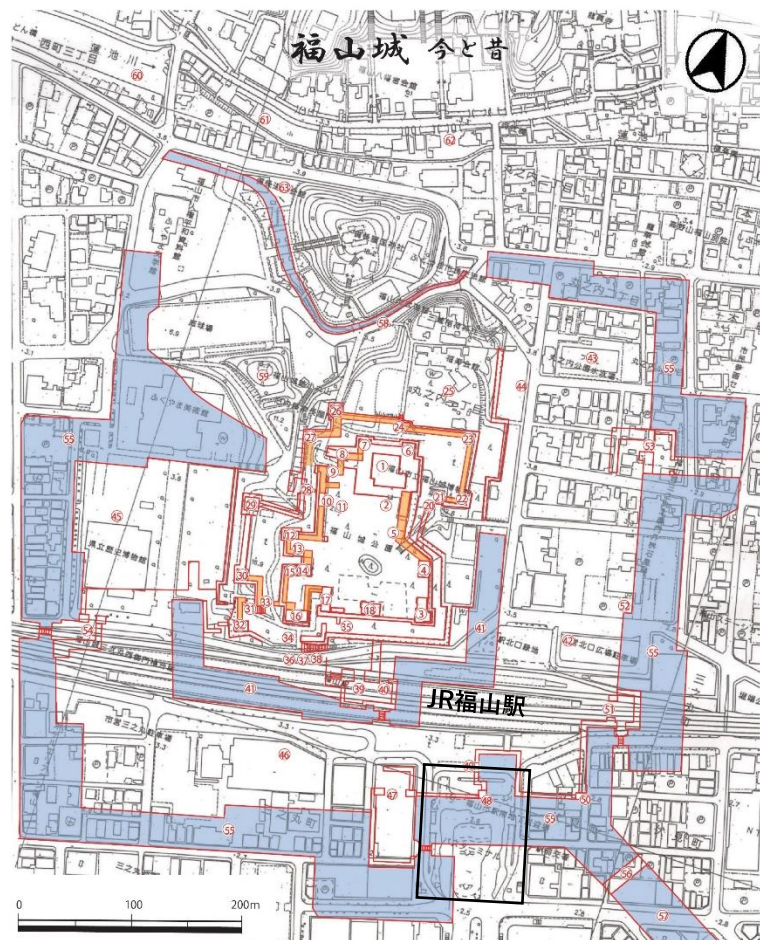


● 史跡福山城跡の本質的な価値

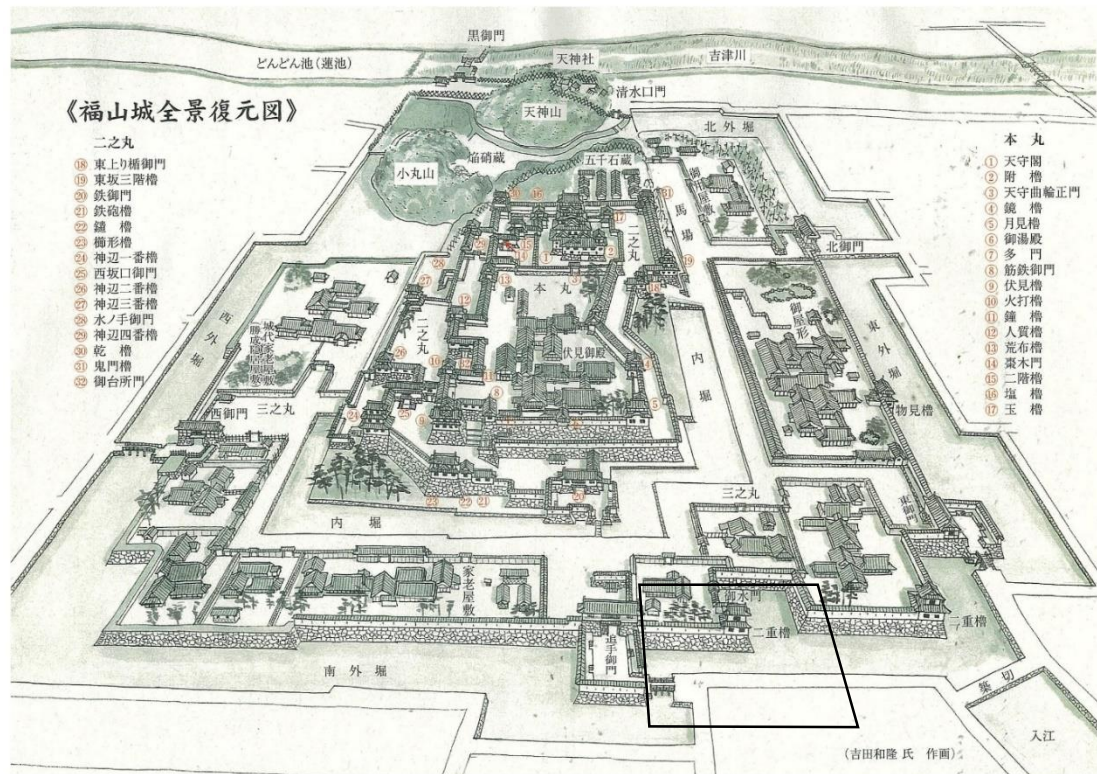
- ✓ 日本城郭の最高到達点に位置する巨大な城
- ✓ 山を造成した三段の総石垣
- ✓ 伏見櫓等の現存建物の希少性・貴重性

史跡福山城跡保存・活用計画より

福山城跡の遺構

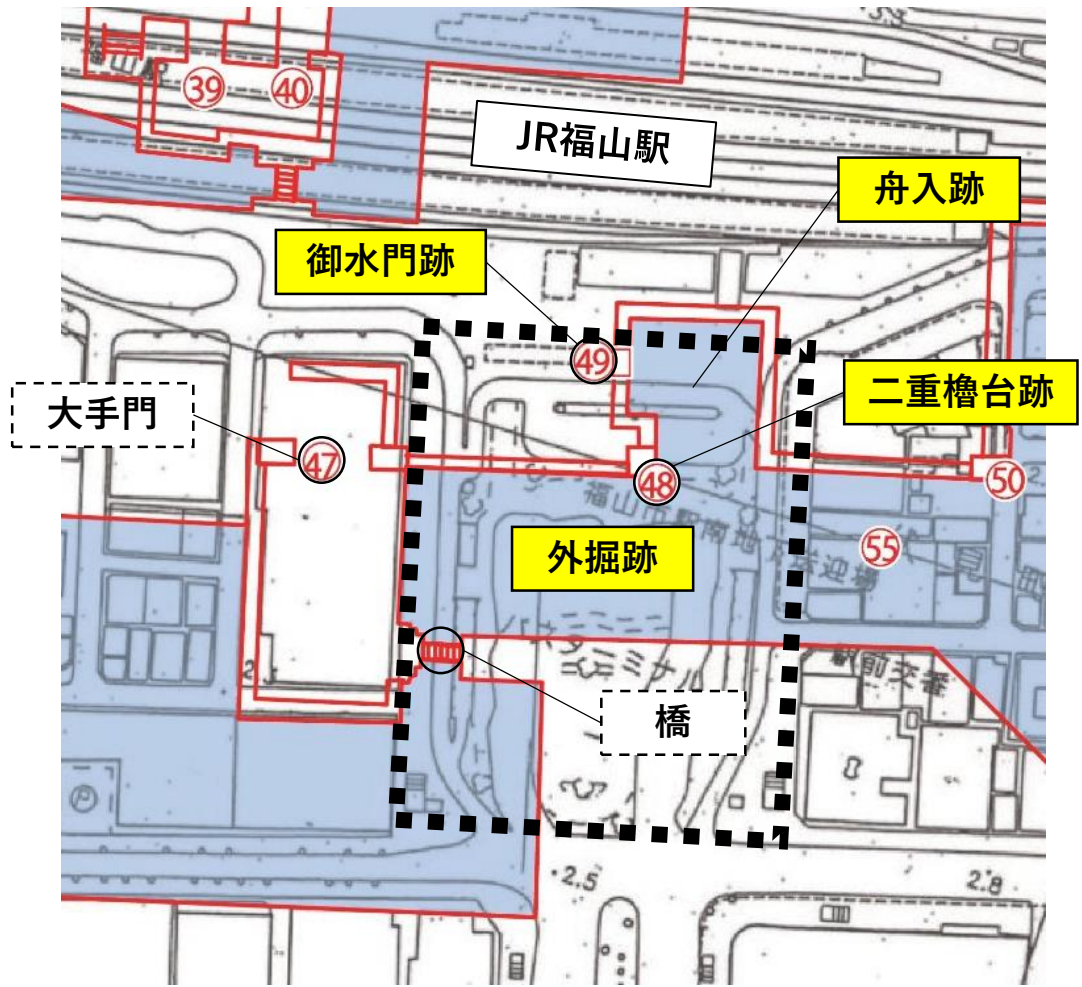


- | | | | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| 【本丸】 | ⑧二階櫓 | ⑬伏見櫓 | ⑱鬼門櫓 | ㉑西坂口門 | ㉒鉄門 | ㉓家老屋敷 | ㉔西御門 | ㉕吉津川 |
| ①天守 | ②天守曲輪門 | ③月見櫓 | ④練櫓 | ⑤守櫓 | ⑥玉櫓 | ⑦堀櫓 | ⑧二階櫓 | ⑨葺木御門 |
| ⑩葺荒布櫓 | ⑪黄堂水 | ⑫人置櫓 | ⑬御台所門 | ⑭御角築櫓 | ⑮東上り櫓門 | ⑯東取三階櫓 | ⑰御湯殿門 | ⑱御湯殿門 |
| ⑲御見櫓 | ⑳御見櫓 | ㉑御見櫓 | ㉒御見櫓 | ㉓御見櫓 | ㉔御見櫓 | ㉕御見櫓 | ㉖御見櫓 | ㉗御見櫓 |
| ㉘御見櫓 | ㉙御見櫓 | ㉚御見櫓 | ㉛御見櫓 | ㉜御見櫓 | ㉝御見櫓 | ㉞御見櫓 | ㉟御見櫓 | ㊱御見櫓 |
| ㊲御見櫓 | ㊳御見櫓 | ㊴御見櫓 | ㊵御見櫓 | ㊶御見櫓 | ㊷御見櫓 | ㊸御見櫓 | ㊹御見櫓 | ㊺御見櫓 |
| ㊻御見櫓 | ㊼御見櫓 | ㊽御見櫓 | ㊾御見櫓 | ㊿御見櫓 | ... | ... | ... | ... |



※黒枠は福山駅前広場の大凡の位置を示す

駅前広場に埋まっている主な遺構



※埋まっている位置は推測。詳細には発掘調査などによる位置の確認が必要

● 史跡福山城跡及び調査区遠景

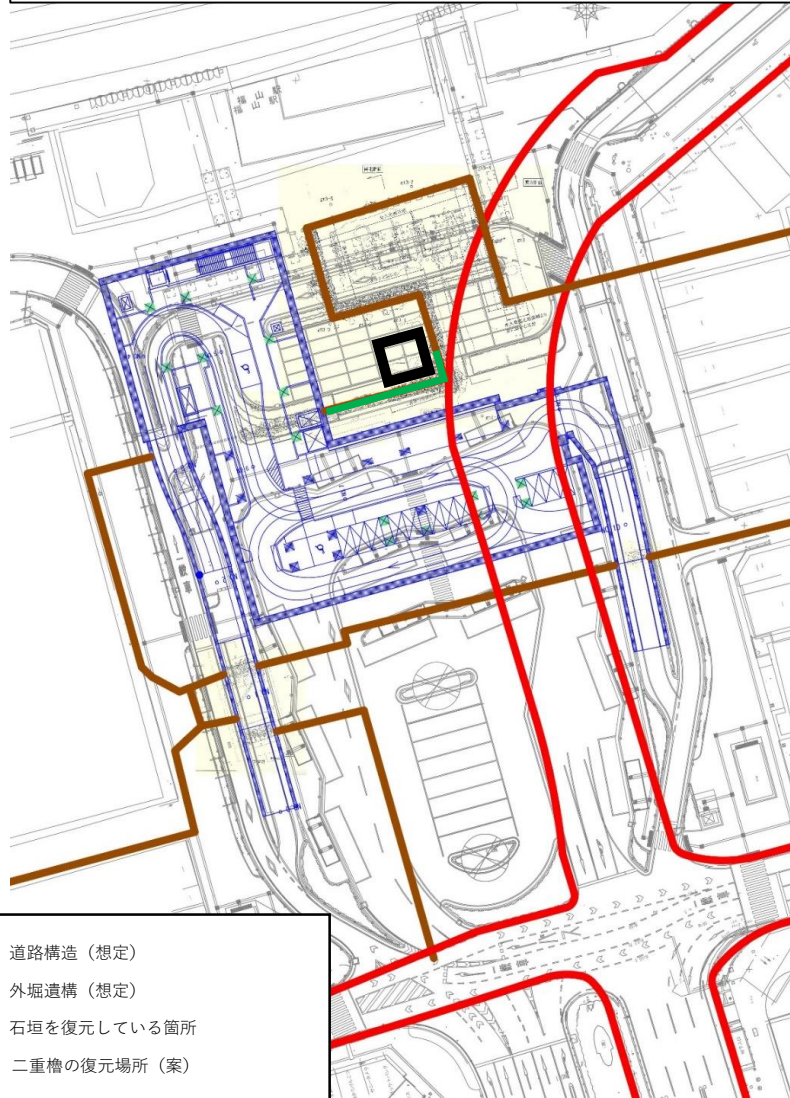


福山駅前広場整備工事（地下送迎場）に伴う
第2次発掘調査報告書（2008）より

道路計画を踏まえた活用場所（C案の場合）

①二重橋の復元

☞施設との離隔や歩行者動線の確保が課題



②外堀遺構の復元

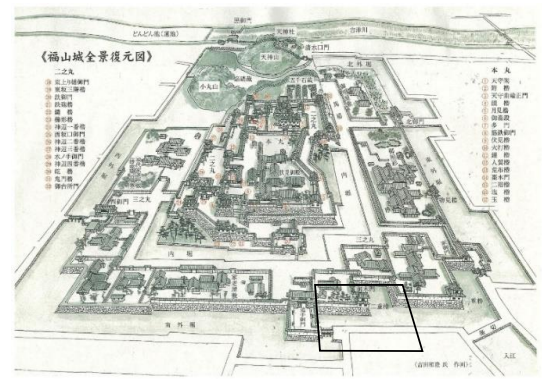
☞外堀遺構を復元できる範囲は限られる



分科会（遺構を生かした空間検討）の検討内容

日時 2023年（令和5年）8月30日（水）
 場所 iti-SETOUCHI（エフビコR1M1階）内コワーキングスペースtovio
 参加 43人（現地23人・オンライン人）

- 開催目的
 福山ならではの特色や魅力を生かした空間の形成をめざし、駅前広場における遺構を生かした空間づくりを検討するため、福山駅前広場協議会分科会（遺構を生かした空間検討）を開催しました。



- 協議会委員
 - ・学識経験者 渡邊一成
 - ・専門家 清水義次, 西村浩
 - ・地域関係者 福山市自治会連合会, 三之丸町町内会, 伏見町町内会
 - ・行政 福山市建設局
- オブザーバー
 - ・福山市文化財保護審議会 佐藤昭嗣, 八幡浩二（敬称略）

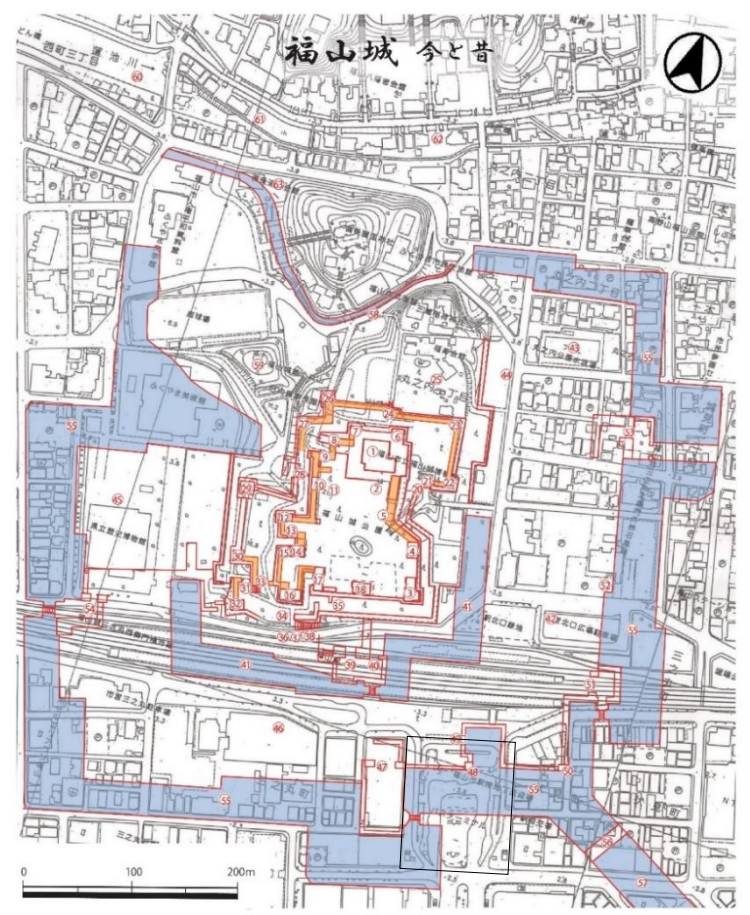
●分科会の検討内容（ポイント）

1. 遺構を生かすためにも全面的な広場化をめざすべき

- ・駅前には交通結節機能が必要。ただし、福山らしさを表現することも求められるため、福山城の遺構を生かした空間づくりは大変重要だ。
- ・より福山城の遺構を生かすためにも、全面的な広場化をめざしてほしい。東西に長い駅舎の特徴を生かしながら、交通を再配置することによって、全面的な広場化を実現できると良い。

2. 福山城の中に駅があるという意識に変えていく

- ・福山城は天守閣だけを指すのではなく、三之丸や二之丸、外堀、もっと言えば入川から瀬戸内海につながるまでのルート、これらを含めて「福山城」と呼ぶべき。これは福山城の特徴でもある。
- ・福山城は駅舎の北側にあると思っている人が多い。今回の整備により、駅舎の南側に福山城の遺構を表現できれば、福山城の中に駅があるという意識が変わっていく。



- | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------|--------|--------|---------|--------|------|------|
| 【本丸】 | ⑧二層櫓 | ⑩伏見櫓 | ⑪堀門櫓 | ⑫西京口門 | ⑬御旗門 | ⑭南家老屋敷 | ⑮西御門 | ⑯吉津川 |
| ①天守 | ③雲木御門 | ④新鉄御門 | ⑤堀口門 | ⑥神辺一番櫓 | ⑦四つ足門 | ⑧大守門 | ⑨外堀 | ⑩赤門 |
| ②天守由輪門 | ⑥虎布櫓 | ⑦御湯殿 | ⑧五千石蔵 | ⑨西棟由輪門 | ⑩内堀 | ⑪二重櫓 | ⑫裏切 | ⑬赤門 |
| ③月見櫓 | ①黄金水 | ②本丸御殿 | ④乾櫓 | ⑤坂上番所 | 【三之丸】 | ⑥御水門 | ⑦入江 | ⑧御水門 |
| ④櫓櫓 | ①人貫櫓 | 【二之丸】 | ②神辺四重櫓 | ③二重由輪門 | ④三之丸御殿 | ⑤二重櫓 | ⑥上水道 | ⑦小丸山 |
| ⑤平櫓 | ⑥御台所門 | ⑦御角菜地 | ⑧雲水の平門 | ⑨御用屋敷 | ⑩表御門 | ⑪小丸山 | ⑫御見櫓 | ⑬池田 |
| ⑥玉櫓 | ⑦櫓櫓 | ⑧東上り櫓門 | ⑨神辺三番櫓 | ⑩西京口門 | ⑪馬場 | ⑫北御門 | ⑬黒門 | ⑭多門櫓 |
| ⑦地櫓 | ⑧火打櫓 | ⑨東坂三層櫓 | ⑩神辺二番櫓 | ⑪御旗櫓 | ⑫城代家老屋敷 | ⑬北御門 | ⑭黒門 | ⑮多門櫓 |

※黒枠は福山駅前広場の概ねの位置

3. 本物を残す。史実に基づかないものはつぐらない。

- あくまでも、文化財は**史実に基づいた科学的根拠のある復元が必要**。二重櫓に関しては、現状では規模や間取りなどが正確には分かっていないため、復元が難しい。時間をかけて、史実が明らかになっていく中で、復元を検討すべきだろう。
- 「**本物を残す。史実に基づかないものはつぐらない。**」という基本姿勢を示した方がいい。基本姿勢を決めることで、何かあっても立ち戻ることができる。

4. 時間をかけて、徐々に駅前広場を育てていく

- 駅前広場が整備された後、継続的に研究を進め、**史実が明らかになったときに、遺構を復元するなど、駅前広場整備を時間軸を持って進める方が**良い。本物が復元されると、その対比によって、まちの深みを感じられるようになると思う。
- 文化財の復元は一朝一夕にはいかない。しかも、史実が全て揃って明らかになるわけではなく、ちくはぐが常に共存する世界。長い期間をかけて復元していくというビジョンを持ちながら、今回はその基盤を整備していくという考え方が良いだろう。**徐々に駅前広場を育てていく**という考え方があっても良い。
- 基盤整備として、**石垣を中心にランドスケープを造り、まずは城郭の中だ**ということが伝わるようにする。そして、その後、継続的に史実を蓄積していき、徐々に復元をする。子ども達はその話に関わりながら大人になっていく。そうした舞台をどのように整えるかという議論を今まさにしているところ。
- 歴史的な観点とは、歴史と現在の対比にある。絶えず歴史は進化し続ける。そして、革新の中に新しい歴史がまた刻まれていく。福山駅前には歴史があり、その足跡が残っている場所。少しずつ時間をかけながら、ゆっくり取り戻していく。そういう再生を歩むことも一つのやり方だろう。

● 史跡福山城跡及び調査区遠景（天満屋からのアングル）



福山駅前広場整備工事（地下送迎場）に伴う第2次発掘調査報告書（2008）より



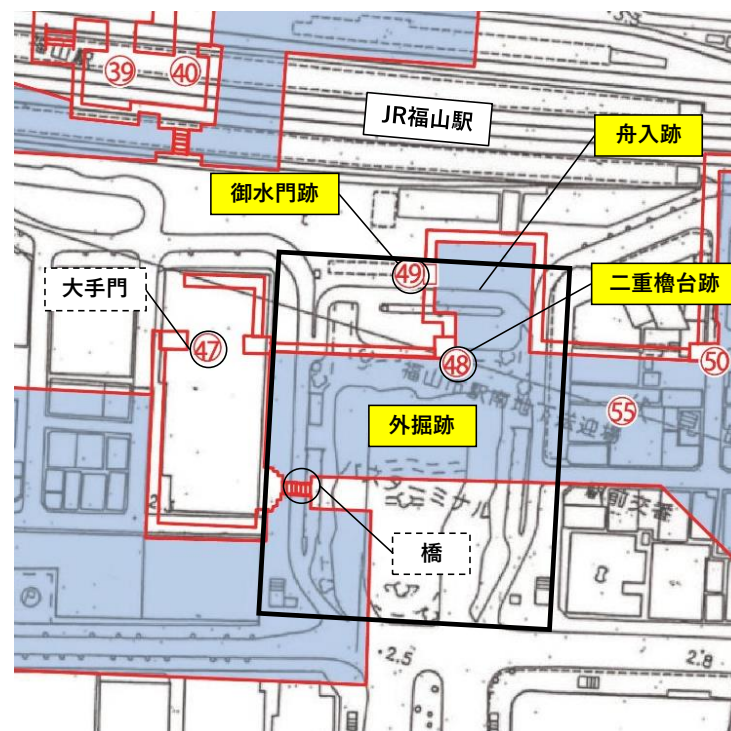
5. 城の特徴を生かしたデザイン

- 現在、復元している石垣の高さは想定の高さ。明治以降の開発によって、石垣の上部は無くなっている。現在の地表面の下に残存する石垣の天端があるが、本来はその上に3m前後くらいの石垣があったと思われる。**残存する石垣を見せようとする、地表面に段差が生まれる。**
- 広場の活用やバリアフリーも考慮しながら、少しの段差をつけることで、お城の特徴である**外堀と内堀のレベル差**をデザインしたり、**堀とそれ以外の素材を変える**などのデザインをすることで、お城であることを印象づけられる。
- 駅前広場西側には**大手門につながる橋**があった。城下の市街地と大手門をつなぐ唯一の通路であり、天守閣への最初の一步となる場所。発掘調査により記録が残っているので、何かしらの方法で表現ができると良いだろう。
- 深いお堀を復元して**水を張る場合、水の管理や転落などの安全面に問題がある**。お堀があったことは何かの方法で伝えた方が良いので、**浅い水盤でお堀を表現**できれば、子ども達が遊べ、教育として外堀があったことも伝えていくことができる。
- 遺構の復元は維持管理費の問題もある。場合によっては、**ホログラフィーによって、二重櫓や外堀を表現する方法**もある。継続的に史実を蓄積し、それを反映させながらホログラフィーを進化させていく方法も面白い。時間の経過とともに様々な世代の人々が関わるができる仕掛けがあると良い。
- 二重櫓に似せた建物を建てた場合、**公衆トイレに間違われる恐れ**があるので、似せた建物は建てない方が良い。
- ギリシャの円形劇場のように「実際に遺構を使う」という方法や遺跡の上をガラス張りにしているイタリアのレストランのように「遺構を見て、記憶を呼び起こす」といった方法もあるだろう。
- 駅の南側から天守閣が見えるようになると良いだろう。広場に高い構造物を造らなくても、天満屋などの上層階からの眺めは良い。**遺構の活用によって、駅前広場周辺の施設の価値も変わっていく**という視点も大切だろう。

- 現在の駅前広場に復元している二重櫓台南側の石垣



- 駅前広場に埋まっている主な遺構



※埋まっている位置は推測。詳細には発掘調査などによる位置の確認が必要

6. ハードとソフトの両面を生かした使い方

- 遺構だけでなく、「二上りおどり」や「とんど」といった無形文化財も重要。ハードとソフトの両面を生かした使い方ができると良い。

7. 市民全員に関わってもらう

- 遺構の議論をするためには交通の議論も必要になる。遺構の活用を望む市民の方々には、遺構以外の議論にも関心を持っていただき、実現に向けて応援していただきたい。
- 福山駅周辺の再生は福山市全体の再生につながる。これを実現するためには、もっと幅広い方々の参加が必要。**市民全員が関わるものになってもらいたい。**是非、この輪が広がっていくことを期待している。



二上りおどり



とんど

●遺構を生かした空間づくりについて

- ✓ 分科会の検討内容を踏まえて、現実的な遺構の活用方法についてご意見をいただきたい